

15－11. 放射線部(大幅改訂)

目次

Ⅱ. 感染防止対策	3
1. ポータブル X 線撮影	3
2. X 線撮影	3
3. TV、CT、MRI、血管造影、核医学、放射線治療	4
4. 歯科 X 線撮影	4
5. 消毒薬剤一覧	4

改訂履歴

発行日	作成者および 改訂者	内容
2021 年 10 月 1 日	小田 まこと	第 7 版発行

I. 特徴

1. 放射線部門は多様な患者が出入りする部門である。また、行われる処置の内容も多岐にわたっているが、きわめて生体由来物質との関わりが大きい。そのなかで院内感染の感染源とならないためにも、医療従事者は自らの手や患者間接触に細心の注意を払っていかなければならない。
2. 標準予防策（スタンダード・プリコーション）を遵守する。
3. 感染症患者またはその疑いのある患者と接するときは、感染経路別予防策を実施する。
4. 感染症患者の撮影・検査・治療は出来る限りその日の最後に実施する。

II. 感染防止対策

1. ポータブルX線撮影

- 1) 指示箋に印字される感染情報を確認し病棟へ向かう。感染情報が反映されていない場合もあるので、病棟ナースセンターで確認し病室入口に掲示されている感染予防対策ポスターに従って対応する。
- 2) 感染症患者の撮影は、その病棟内の最後に実施する。
- 3) 感染症患者の撮影時には、カセット・グリッドをビニール袋で覆う。
- 4) 撮影終了後は、患者に使用した機器・器具（カセット・グリッド など）は感染症に有効な消毒液で清拭消毒する。
- 5) ICU、救急病棟は全患者を感染症患者として対応する。
- 6) 病棟でアウトブレイクが発生した場合、要請があれば一時的に専用ポータブルX線装置を準備することがある。（装置に余裕があれば）

2. X線撮影

- 1) 感染症患者の撮影・検査・治療を行うときは、必要に応じて手袋・ディスポエプロン・マスクなどを着用する。
- 2) 検査寝台にディスポシートを敷き、汚染を最小限にする。
- 3) 感染症患者の検査は、出来る限りその日の最後、または患者の少ない時間帯に実施する。
- 4) 機器や撮影補助具など、患者が直接触れるものおよび患者に接触した職員が触れるものは、検査終了後に感染症に有効な消毒液で清拭消毒する。
- 5) リネンの洗濯は、ビニール袋に入れ耐性菌等を明記しランドリーボックスに入れる。
- 6) 感染症が後で判明したときは、感染対策マネージャーおよび感染制御部と協議し、対策を講じる。

3. TV、CT、MRI、血管造影、核医学、放射線治療

中央診療検査 I ナースセンターの項に準じて、看護師と協力して対策を行う。

4. 歯科 X 線撮影

- 1) 感染症患者の撮影を行うときはマスク、手袋を着用し、必要に応じてフェイスガード、エプロンを着用する。但し、デンタル撮影においては感染の有無にかかわらず必ずマスク、手袋を着用し、患者ごとに交換する。
- 2) 撮影椅子は必要に応じてディスポシートを敷く。
- 3) 感染症患者の撮影は必要に応じて診療科と時間調整を行い、他の患者がいない時に行う。
- 4) X 線撮影装置、撮影椅子など患者や技師が撮影時に触れたものを検査終了後に感染症に有効な消毒液で清拭消毒する。また、デンタル撮影などで患者の唾液等が付着する可能性のあるものは感染症の有無にかかわらず、検査終了後に消毒用エタノールで清拭する。
- 5) 感染症患者の撮影時に使用したデンタル用 IP の保護袋やマスク、手袋などは感染性廃棄物として破棄する。また、感染の有無にかかわらず、血液が付着した場合は感染性廃棄物として破棄する。
- 6) 検査後に感染症が判明した場合は、感染対策マネージャーおよび感染制御部と協議し、対策を講じる。

5. 消毒薬剤一覧

MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）	接触	アルコール
ESBL 産生菌	接触	アルコール
VRE	接触	アルコール
CRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）	接触	アルコール
MDRP（多剤耐性緑膿菌）	接触	アルコール
MBL（メタロ β ラクタマーゼ）産生菌	接触	アルコール
多剤耐性アシネトバクター	接触	アルコール、ルビスタ
クロストリジウム・ディフィシル（CD）	接触	次亜塩素酸ナトリウム
水痘（播種性帯状疱疹）	空気、飛沫、接触	アルコール
帯状疱疹	接触	アルコール
麻疹	空気、飛沫	アルコール
風疹	飛沫	アルコール
ムンプス	飛沫	アルコール

インフルエンザ	飛沫、接触	アルコール
感染性胃腸炎（ノロ、アデノ、ロタ等）	接触	次亜塩素酸ナトリウム
流行性角結膜炎	接触	アルコール
コロナウイルス	飛沫、接触	アルコール

詳細やその他の感染症については院内感染対策マニュアル参照